

柔らかなココロ 「師匠」



私が吉岡剛先生と出会ったのは18年前、高校3年生の時だ。初めて見た時は岩みたいな山みたいな「ザ・柔道」みたいな人だなあと、漠然と接していた事を覚えている。そりゃ、18歳の右も左も分からない女の子が思うファーストインプレッションなんぞ、こんなもんだ。

大学時代の4年間は正直、先生との記憶があまりない。もともと、大学という場所は自分で考え自分でやるというものだという意識が強い子だったのもあり、誰かに教えるを強く求める事はナンセンスだと思っていた。そんな私だったが、大学後の進路に迷っていた時に吉岡先生から「柔道を続けてみたらどうだ」と強く勧められた。親戚一同、公務員という家庭で育った私は当然、新卒で公務員になり、地に足をべったりつけて生活をするのだと鼻息荒く意気込んでいた。その為、何度も断っていたのだが、「絶対日本一になれる」と毎日言われているうちに、本当にそうなのかと思いつつ「続けます」と言ってしまった。

そしたら、翌月には会社を立ち上げ、その実業団選手として登録するという、普通ではあり得ないような行動力を発揮され、めでたく私はS・T・O（社名由来については後ほど）という会社の社員（選手）となってしまった。そうやって、いささかイレギュラーな方法で実業団に進み日本一を目指すこととなった。その時の練習量は絶対に日本一と自負している。寝ても覚めても人を投げる事だけを考えて一日中過ごした。一日平均10時間の稽古とトレーニング。しかし結果は出ず、鳴かず飛ばずの4年間を過ごした。結果の出ない日々には遣る瀬無さを感じ、何度も引退しようと考えたが踏み止まったのは吉岡先生の「大丈夫、日本一になれる」と常々言ってくれていた事だ。そして先生の言った通り5年目にして実業団日本一になり、28歳で初めてシニアの強化選手入りし、国際大会に出場できるまでになった。

吉岡先生から学んだ事は山のようにあるのだが、あえて一つだけ選ぶのならば、「人事を尽くしてケ・セラ・セラ」だと思う。「思い悩むな。やる事をやったら、あとは成るようになる。」という解釈なのだが、これは私が迷いそうになった時、必ず心に降りてくる言葉の一つだ。

ここまでくると、吉岡先生がお亡くなりになったから書いたのでは、、、と思われるが、先生は未だ元気にご健在なので、あしからず。私の柔道人生は勿論、生きていく上で本当に何が大切なのかというベースを常々学ばせて頂いている師匠に対して、ここらで、あえて声に出して思い返すのも悪くないかな、と思いついて書いた所存です。

吉岡先生、これからも、家族ぐるみのお付き合い末永くよろしく願いいたします！